

【プレゼンテーション資料】

2008年度第3四半期 連結業績のご説明

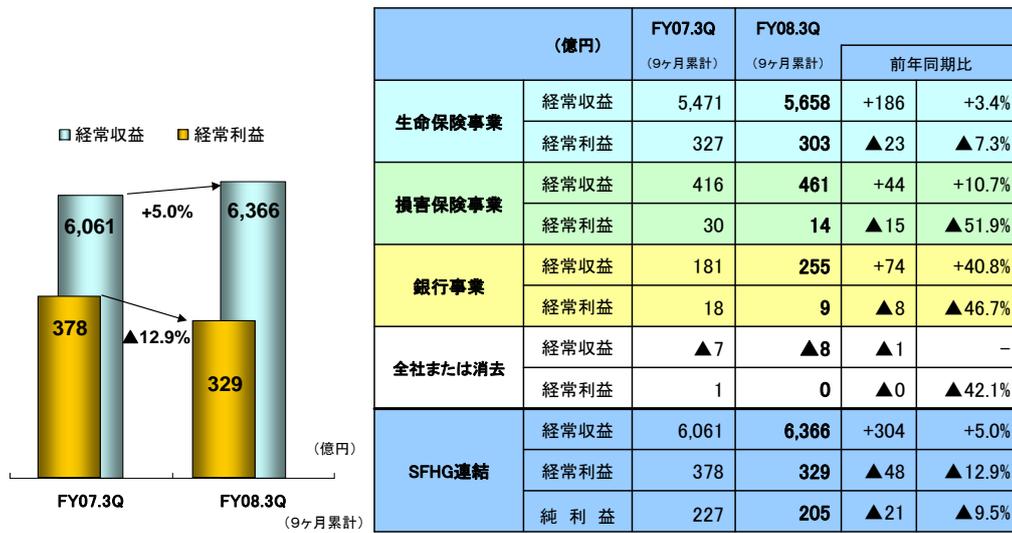
ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2009年2月12日

表紙

免責事項:

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見通しを見直すとは限りません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

連結業績ハイライト



	(億円)	FY07.3Q	FY08.3Q	前年同期比	
		(9ヶ月累計)	(9ヶ月累計)	増減	増減率
生命保険事業	経常収益	5,471	5,658	+186	+3.4%
	経常利益	327	303	▲23	▲7.3%
損害保険事業	経常収益	416	461	+44	+10.7%
	経常利益	30	14	▲15	▲51.9%
銀行事業	経常収益	181	255	+74	+40.8%
	経常利益	18	9	▲8	▲46.7%
全社または消去	経常収益	▲7	▲8	▲1	-
	経常利益	1	0	▲0	▲42.1%
SFHG連結	経常収益	6,061	6,366	+304	+5.0%
	経常利益	378	329	▲48	▲12.9%
	純利益	227	205	▲21	▲9.5%

金額は億円未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

ソニーフィナンシャルホールディングスグループの2008年4月から12月までの9ヶ月間累計の連結経常収益は、生命保険、損害保険、銀行の全ての事業で増収となり、前年同期比5.0%増加の6,366億円となりました。

連結経常利益は、生命保険、損害保険、銀行の全ての事業において減益となり、前年同期比12.9%減少の329億円となりました。

純利益は、前年同期比9.5%減少の205億円となりました。

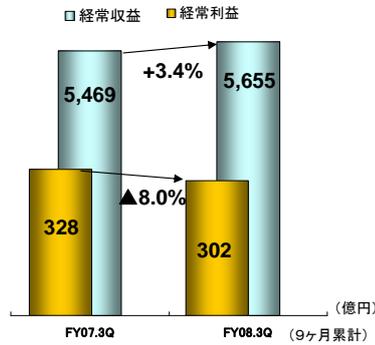
次の3ページのスライドには各事業セグメント毎の業績の要旨をまとめておりますのでご覧ください。

続いて4 ページ目から、各事業を担う3社の業績について詳細をご説明します。

連結業績ハイライト

- 生命保険事業では、新契約高・保有契約高（個人保険＋個人年金保険）、保険料等収入ともに堅調に推移。資産運用状況の悪化などにより経常利益は減少。
- 損害保険事業では、自動車保険の新規契約獲得が好調なことから正味収入保険料が増加。08年12月末（販売開始から9年3ヶ月）で自動車保険保有契約100万件到達。損害率の上昇などにより経常利益は減少。
- 銀行事業では、業容の順調な拡大にともなう運用資産残高の増加により、業務粗利益は増加したものの、システム関連費用を中心とした営業経費等が増加したことから経常利益は減少。
- 連結ベースの経常収益は、前年同期比304億円増加（+5.0%）の6,366億円。経常利益は、前年同期比48億円減少（▲12.9%）の329億円。純利益は、価格変動準備金の取り崩しを実施したものの、前年同期比21億円減少（▲9.5%）の205億円。

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



(億円)	FY07.3Q	FY08.3Q	前年同期比	
	(9ヶ月累計)	(9ヶ月累計)		
経常収益	5,469	5,655	+185	+3.4%
保険料等収入	4,797	4,896	+99	+2.1%
資産運用収益	637	722	+84	+13.3%
経常費用	5,141	5,353	+212	+4.1%
保険金等支払金	1,794	1,983	+188	+10.5%
責任準備金等繰入額	2,357	1,539	▲817	▲34.7%
資産運用費用	219	1,041	+821	+373.9%
事業費	693	697	+3	+0.5%
経常利益	328	302	▲26	▲8.0%
純利益	181	220	+39	+22.0%

【ソニー生命】

- ◆前年同期比 増収減益
- ◆新契約高は前年同期比2.8%増加
- ◆保有契約高の堅調推移により保険料等収入が増加
- ◆危険準備金および価格変動準備金の取り崩しを実施
- ◆基礎利益は226億円
- ◆ソルベンシー・マージン比率は08年9月末比329.6pt上昇し1,995.0%

(億円)	07.12末	08.3末	08.12末	前年度末比	
有価証券残高	24,194	23,889	24,374	+485	+2.0%
責任準備金残高	33,246	33,750	35,277	+1,526	+4.5%
純資産額	2,138	1,826	1,496	▲330	▲18.1%
その他有価証券評価差額金	1,143	827	246	▲580	▲70.2%
総資産額	37,103	36,597	37,587	+989	+2.7%
特別勘定資産	3,478	3,217	2,736	▲481	▲15.0%

*新契約高、保有契約高は個人保険と個人年金保険の合計
金額は億円未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

まず、ソニー生命単体の業績ハイライトについてご説明します。

ソニー生命の経常収益は、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したことにより、前年同期比**3.4%**増加し、**5,655**億円となりました。

経常利益は、日本の株式相場の大幅な下落に伴う、資産運用状況の悪化により、前年同期比**8.0%**減少の、**302**億円となりました。なお、金融市況の悪化にともなう運用利回り低下に対応するため、危険準備金の一部を取り崩しております。

純利益は、株式等の売買や評価替えなどによる損失に対応するため、価格変動準備金の一部を取り崩したことにより、前年同期比**22.0%**増加の、**220**億円となりました。

ソニー生命 主要業績指標(単体)



(単位: 億円)

	2007年度第3四半期	2008年度第3四半期	増減率
新契約高*1	29,109	29,936	+2.8%
新契約年換算保険料*1	483	477	▲1.2%
うち第三分野	103	103	+0.3%
保険料等収入	4,797	4,896	+2.1%
資産運用損益	417	▲319	-
基礎利益	198	226	+13.8%
実質純資産額*3	-	6,088	-
逆ざや額	210	163	▲22.4%
解約・失効率*1,*2	4.61%	4.95%	+0.34pt

	07.12末	08.3末	08.12末	前年同期末比	
				増減額	増減率
保有契約高*1	312,550	314,973	324,066	11,515	+3.7%
保有契約年換算保険料*1	5,246	5,300	5,461	214	+4.1%
うち第三分野	1,220	1,228	1,260	39	+3.3%
ソルベンシー・マージン比率*3	-	1,747.9%	1,995.0%	-	-

*1) 保有契約高、保有契約年換算保険料、解約・失効率、新契約高、新契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計。

*2) 解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに出算。

*3) 2007年度第3四半期、07.12末の数値を作成していないため記載なし。

金額は億円未満切捨て

増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

5

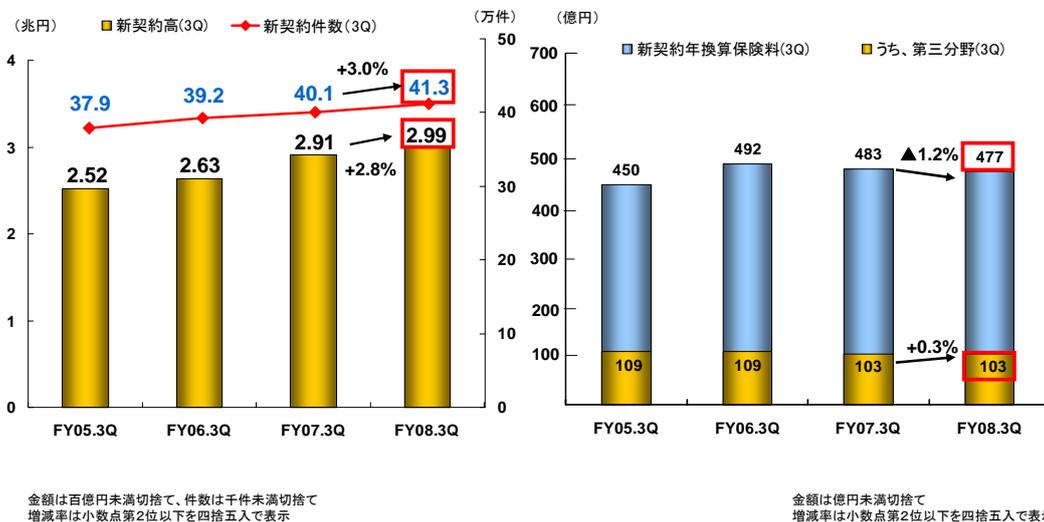
ソニー生命の主要業績指標につきましては、このスライドに記載の通りでございます。

これ以降のスライドで過去の実績と合わせた資料でご説明いたします。

ソニー生命の業績(1)

新契約高(個人保険+個人年金保険)

新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



6

(左側のグラフ)

個人保険、個人年金保険を合計した新契約高は、前年同期比2.8%増加し、2兆9,936億円となり、新契約件数も、3.0%増加し41万件となりました。

(右側のグラフ)

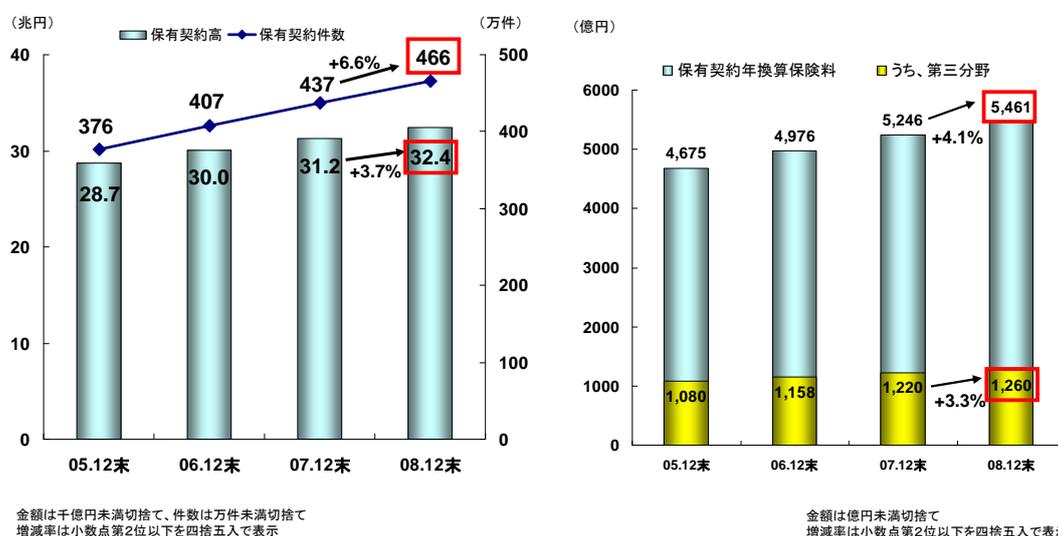
新契約年換算保険料は、1.2%減少し477億円となりましたが、このうち第三分野は0.3%増加の103億円となりました。

なお、新契約高が伸展しているにもかかわらず、新契約年換算保険料が減少しているのは、個人保険に比べて、1件あたりの新契約年換算保険料が高い個人年金保険の販売が減少したことが主な要因と考えております。

ソニー生命の業績(2)

保有契約高(個人保険+個人年金保険)

保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



7

(左側のグラフ)

個人保険、個人年金保険を合計した保有契約高は堅調に推移し、前年同期末比3.7%増加し、32兆4,066億円となりました。

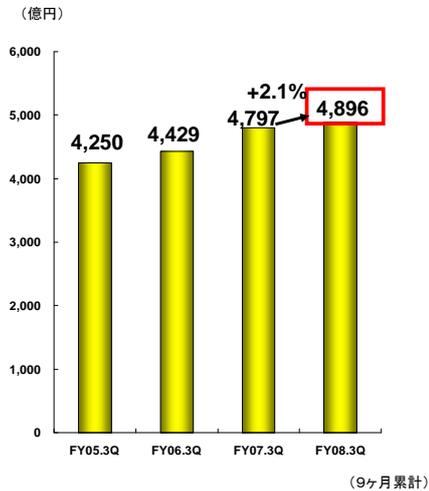
保有契約件数は前年同期末比6.6%増加し、466万件となりました。

(右側のグラフ)

保有契約年換算保険料は、前年同期末比4.1%増加し、5,461億円となり、このうち第三分野は前年同期末比3.3%増加し1,260億円となりました。

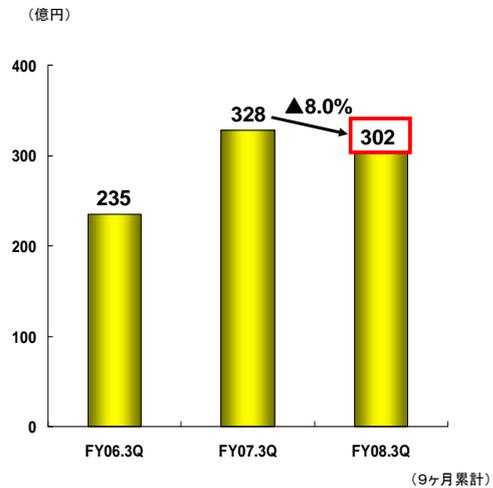
ソニー生命の業績(3)

保険料等収入



金額は億円未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

経常利益



金額は億円未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

(左側のグラフ)

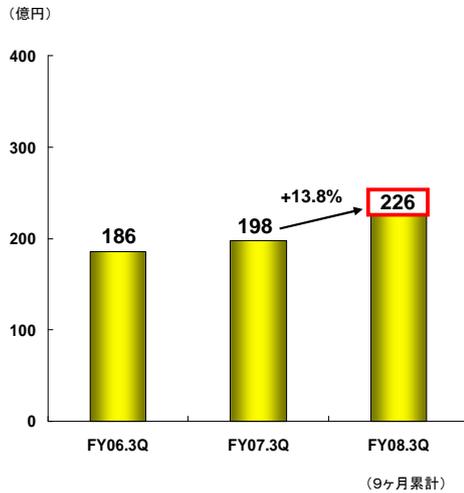
保険料等収入は、保有契約高の堅調な推移により、前年同期に比べ2.1%増加し4,896億円となりました。

(右側のグラフ)

また、ソニー生命の経常利益は、先のご説明のとおり、前年同期比8.0%減少し302億円となりました。

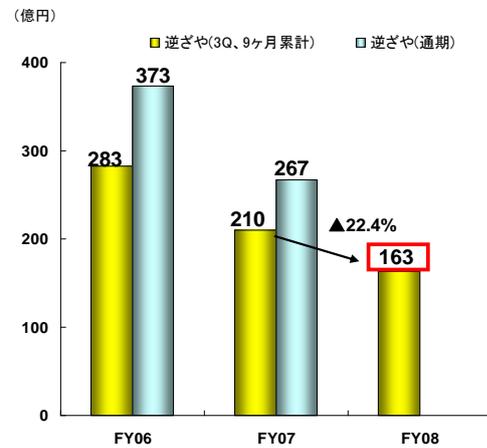
ソニー生命の業績(4)

基礎利益



金額は億円未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

逆ざや額



金額は億円未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

(左側のグラフ)

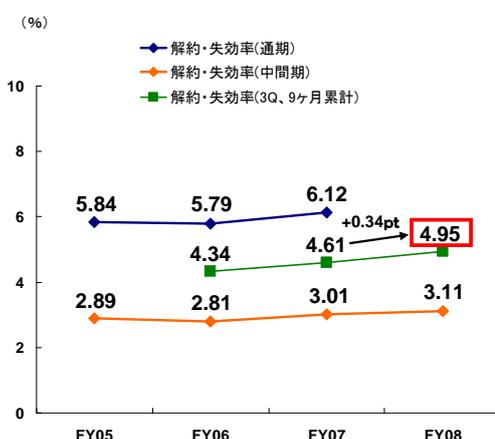
基礎利益は、保険料等収入の増加と利息および配当金等収入の増加に伴い、前年同期比**13.8%**増加し、**226億円**となりました。

(右側のグラフ)

逆ざや額につきましても、利息および配当金等収入の増加に伴い、前年同期比**22.4%**減少し**163億円**となりました。

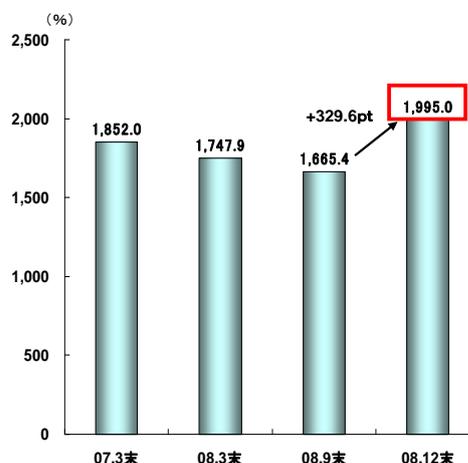
ソニー生命の業績(5)

解約・失効率* (個人保険+個人年金保険)
 <通期・中間期・第3四半期(9ヶ月累計)>



*解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出した数値です。

ソルベンシー・マージン比率



10

(左側のグラフ)

解約・失効率は、緑色の折れ線グラフが示すとおり、前年同期比0.34ポイント上昇し4.95%となりました。

解約・失効率の上昇の主な要因は、法人契約の定期保険と個人契約の変額保険の解約の増加などによるものです。その背景には、景気や運用環境の悪化があるものと考えております。

(右側のグラフ)

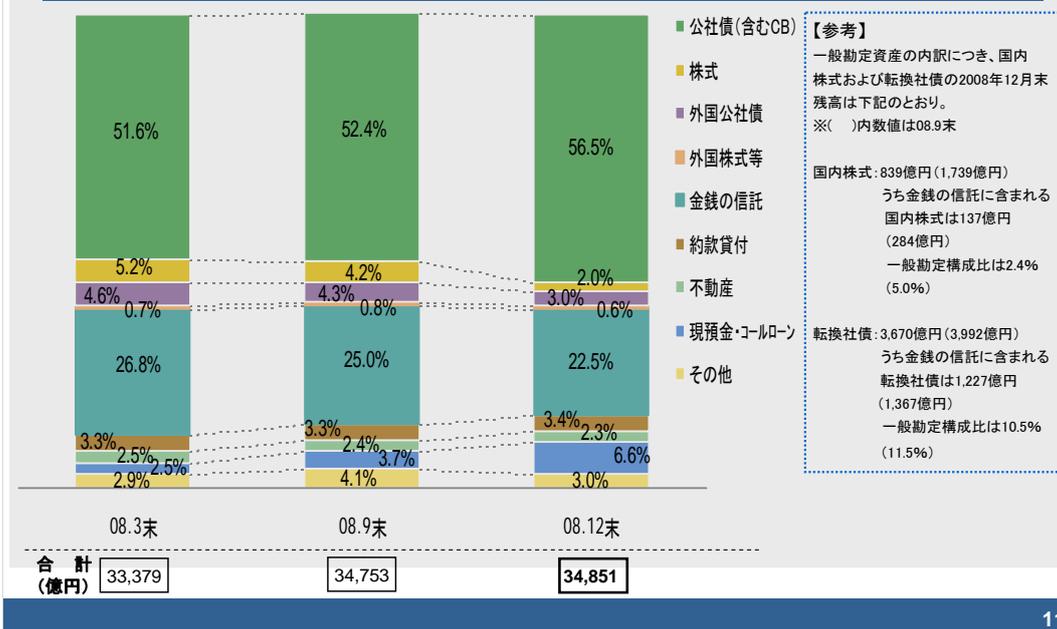
生命保険会社の健全性を示す指標のひとつであります、ソルベンシー・マージン比率は、金利低下による債券価格の上昇によりその他有価証券の評価差額が増加したこと、株式などのリスクアセットの圧縮に伴い価格変動等リスクが低減したことなどにより、2008年9月末に比べて、329.6ポイント上昇し、1,995.0%となりました。

ソニー生命は引き続き財務基盤の健全性の維持に努めてまいります。

ソニー生命の業績(6)



一般勘定資産の内訳



前年度末および2008年9月末と対比した当四半期末の一般勘定の資産構成比はご覧のとおりです。

株式、および公社債に含まれる転換社債につきましては、金銭の信託に含まれる株式および転換社債と合わせた実質ベースで見ますと、一般勘定資産総額に占める割合は、株式が2008年9月末では5.0%でしたが、当四半期末には2.4%に減少し、転換社債も11.5%から10.5%に減少しております。

2009年1月以降も引き続き金融市場環境が極めて不安定な状況にありますが、「超長期債への投資を増やしていく方針」に変更はございません。

ソニー生命の業績(7)

時価のあるその他有価証券の差損益

(単位:億円)	08. 3末	08. 6末	08. 9末	08. 12末
公社債	834	286	190	588
うちCB	92	84	▲195	▲226
株式	508	632	241	33
外国証券	▲95	▲58	▲121	▲61
その他証券	30	38	19	▲0
合計	1,278	898	330	560

金額は億円未満切捨て

※金銭の信託に含まれているものも含む。

※2008年12月末の公社債588億円は、満期保有目的債券の含み益695億円は含まず。

※2008年12月末時点でソニー生命が保有するCBの加重平均価格は91.4円、

平均残存期間は3.8年(フット条項を行使した場合の平均残存期間は2.4年)。

「時価のあるその他有価証券の差損益」の状況を、前年度末より四半期ごとに開示しておりますが、当四半期末時点での含み益は**560億円**となっております。

株式を中心とするリスク資産については、マーケットの状況を注視しつつも、デリバティブ取引によるヘッジも実施しています。

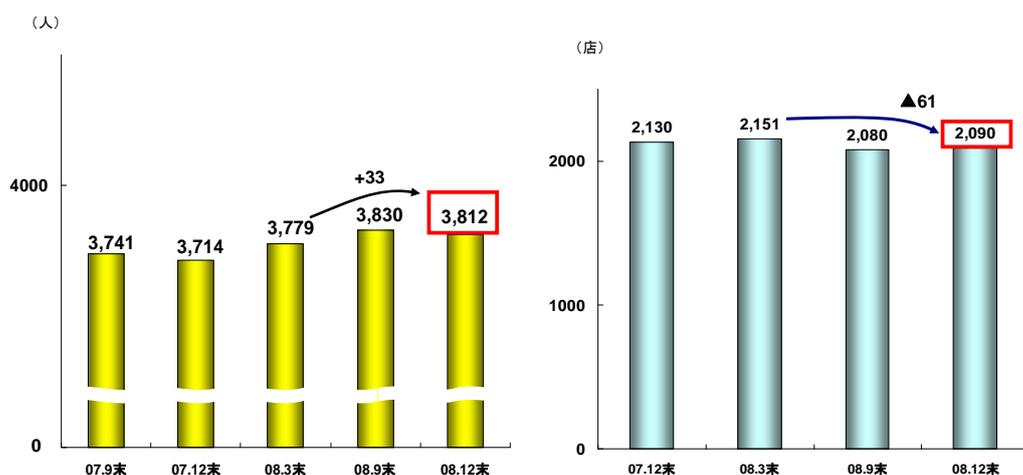
なお、第3四半期より開始した株式関連デリバティブ取引により生じた利益として、**50億円**を損益計算書に計上しました。

また、**9ヶ月累計の減損額は234億円**です。

ソニー生命の業績(8)

ライフプランナー在籍数

代理店数



13

(左側のグラフ)

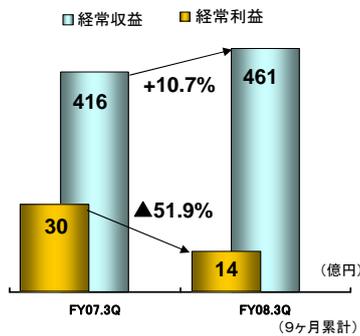
2008年12月末時点でのライフプランナー在籍数は、前年度末に比べると33人増加し、3,812人となりました。

ソニー生命のライフプランナー採用方針として、12月入社を採用は行っておりませんので、前年同期においても同じ傾向が現れていますように、第3四半期末時点のライフプランナー数は第2四半期末時点よりも減少する傾向にあります。

(右側のグラフ)

代理店数は、前年度末に比べて61店減少し、2,090店となっています。

ソニー損保 業績ハイライト



(億円)	FY07.3Q	FY08.3Q	前年同期比	
	(9ヶ月累計)	(9ヶ月累計)		
経常収益	416	461	+44	+10.7%
保険引受収益	412	456	+44	+10.7%
資産運用収益	4	5	+0	+17.4%
経常費用	386	446	+60	+15.6%
保険引受費用	289	335	+45	+15.9%
資産運用費用	0	1	+1	+2,159.9%
営業費及び一般管理費	96	110	+13	+13.9%
経常利益	30	14	▲15	▲51.9%
純利益(▲は損失)	25	▲19	▲45	-

【ソニー損保】

- ◆前年同期比 増収減益
- ◆損害率の上昇により経常費用が増加
- ◆08年12月末(販売開始から9年3ヶ月)で自動車保険保有契約100万件到達
- ◆主力の自動車保険の新規契約の好調により正味収入保険料は455億円
- ◆コンバインド・レシオは、2.9ポイント上昇の80.3%
- ◆特別損失計上により純損失は19億円

(億円)	07.12末	08.3末	08.12末	前年度末比	
責任準備金残高	412	427	490	+63	+14.9%
純資産額	158	153	133	▲20	▲13.4%
その他有価証券評価差額金	0	▲0	▲1	▲1	-
総資産額	743	786	822	+35	+4.6%

金額は億円未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

14

ソニー損保の業績ハイライトについてご説明いたします。

経常収益は、主力の自動車保険の好調により正味収入保険料が増加し、前年同期比**10.7%**増加し、**461億円**となりました。

経常利益は、主に自然災害の増加などにより損害率が上昇したことなどから、前年同期比**51.9%**減少し**14億円**となりました。

また、**2006年度**からシステムとオペレーションの効率化を目的に進めておりました新システム開発を中断し、開発方針を見直したため、ソフトウェア仮勘定として計上していたソフトウェア資産のうち、今後使用が確実と見えないものを除却いたしました。これにより、**37億6千万円**を特別損失として計上したため、今期の純損益は**19億円**の損失となりました。

なお、新システム開発は中断しますが、商品やサービスなど事業戦略に必要なシステム開発は現行システムに対して行いますので、事業上の支障はありません。

ソニー損保 主要業績指標



(単位:億円)

	2007年度第3四半期 (9ヶ月累計)	2008年度第3四半期 (9ヶ月累計)	増減率
元受正味保険料	409	453	+10.9%
正味収入保険料	411	455	+10.7%
正味支払保険金	191	220	+15.1%
保険引受利益	26	10	▲58.7%
正味損害率	52.3%	54.4%	+2.1pt
正味事業費率	25.1%	25.9%	+0.8pt
コンバインド・レシオ	77.4%	80.3%	+2.9pt

	07.12末	08.3末	08.12末	前年同期末比	
				増減数	増減率
保有契約件数	100万件	102万件	112万件	+11万件	+11.9%

※正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
 ※正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料
 ※保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

金額は億円未満切捨て、
 増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示
 件数は万件未満切捨て

15

ソニー損保の主要業績指標につきましては、スライドに記載の通りでございます。

次の16ページ目のスライドには、元受正味保険料、正味収入保険料、正味支払保険金の種目別内訳を記載しておりますのでご覧下さい。

続いて、17ページ以降のスライドで詳細をご説明します。

ソニー損保 種目別保険引受の状況



(単位:百万円)

正味収入保険料

	2007年度 第3四半期	2008年度 第3四半期	増減率
火災	11	13	+10.9%
海上	38	32	▲16.0%
傷害	4,839	5,159	+6.6%
自動車	35,855	39,997	+11.5%
自賠責	432	378	▲12.4%
合計	41,177	45,580	+10.7%

元受正味保険料

	2007年度 第3四半期	2008年度 第3四半期	増減率
火災	200	265	+32.7%
海上	-	-	-
傷害	4,707	4,959	+5.3%
自動車	36,012	40,152	+11.5%
自賠責	-	-	-
合計	40,920	45,377	+10.9%

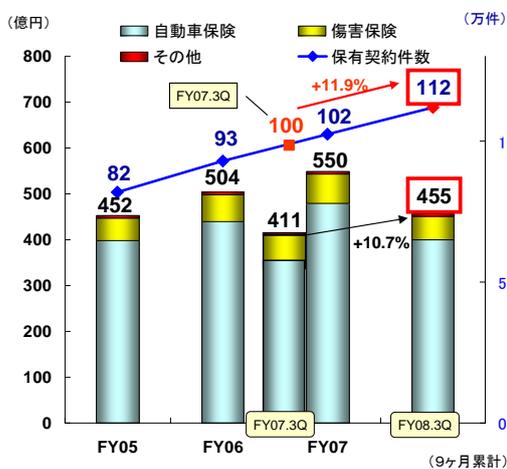
正味支払保険金

	2007年度 第3四半期	2008年度 第3四半期	増減率
火災	0	0	▲37.6%
海上	17	11	▲35.1%
傷害	897	1,001	+11.6%
自動車	17,936	20,715	+15.5%
自賠責	333	363	+8.8%
合計	19,185	22,092	+15.1%

金額は百万円未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

ソニー損保の業績(1)

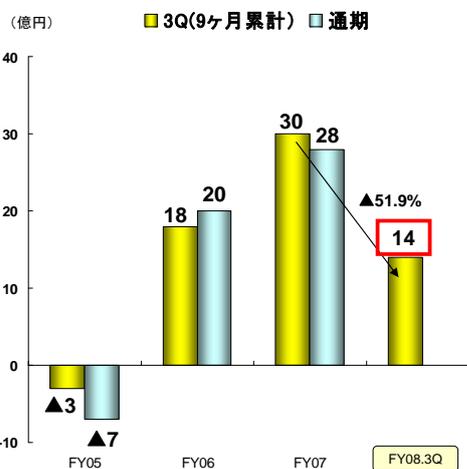
正味収入保険料と保有契約件数



保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%以上を占める。傷害保険のほとんどが、ガン重点医療保険である。

金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て

経常利益(損失)



金額は億円未満切捨て

(左側のグラフ)

保険引受の状況につきましては、販売開始から9年3ヶ月を経た当期末に、自動車保険の保有契約件数で100万件に達しました。保有契約件数は順調に増加し、自動車保険とガン重点医療保険の合計で、前年同期末比11.9%増加し、112万件となりました。

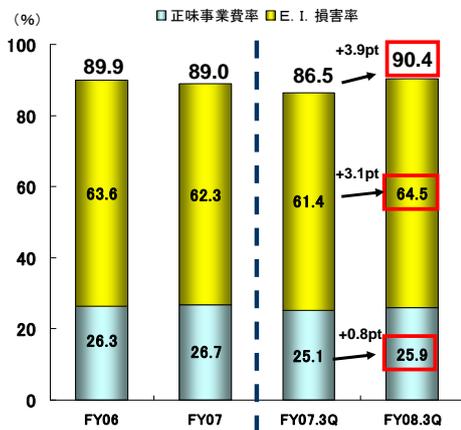
元受正味保険料は、自動車保険契約の順調な増加にともない、前年同期比10.9%増加し、453億円となりました。正味収入保険料も、前年同期比10.7%増加し、455億円となりました。

(右側のグラフ)

経常利益は、先のご説明のとおり、前年同期比51.9%減少の14億円となりました。

ソニー損保の業績(2)

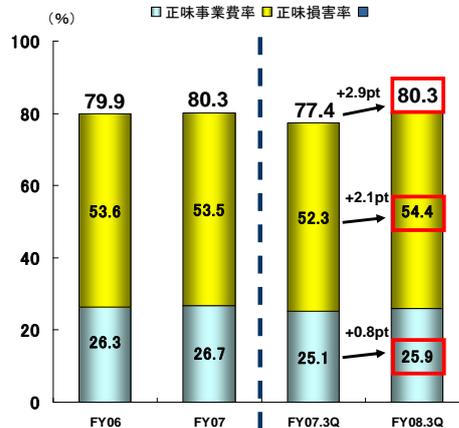
正味事業費率+E.I.損害率



正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
 E.I.損害率=(正味支払保険金+支払備金積増額+損害調査費)÷既経過保険料
 ※除く地震保険、自賠責保険

<参考>

コンバインド・レシオ (正味事業費率+正味損害率)



正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
 正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

(左側のグラフ)

成長段階にあるソニー損保の実態をご理解いただくために、正味損害率を発生ベースでみたアード・インカード損害率についてご説明いたします。

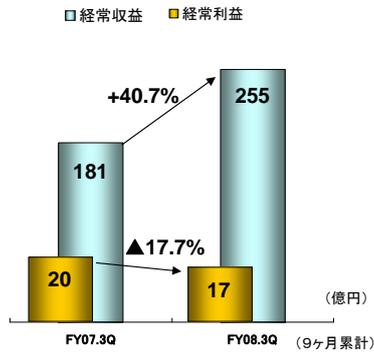
第3四半期の比較では、アード・インカード損害率は前年同期に比べ3.1ポイント上昇していますが、このうち前年同期における傷害保険の責任準備金算出方法変更の影響の0.8ポイント、さらに自然災害の影響の0.8ポイントを除くと当四半期の損害率は63.0%となり上昇幅は1.5ポイントとなります。前年同期比較では上昇しておりますが、2006年度、2007年度推移でみれば引き続き安定的に推移していることがお分かりいただけると思います。

正味事業費率は、業務の効率化を進めた一方でシステム関連費用等が増加したことにより、0.8ポイント上昇の25.9%となりました。

(右側のグラフ)

正味損害率は、自然災害の影響などにより2.1ポイント上昇の54.4%となりました。この結果、正味事業費率と正味損害率を合わせたコンバインド・レシオは2.9ポイント上昇の80.3%となりました。

ソニー銀行 業績ハイライト(単体)



(億円)	FY07.3Q	FY08.3Q	前年同期比	
	(9ヶ月累計)	(9ヶ月累計)		
経常収益	181	255	+73	+40.7%
業務粗利益	79	94	+14	+18.4%
資金運用収支	38	38	+0	+0.5%
役員取引等収支	3	2	▲0	▲7.9%
その他業務収支	38	52	+14	+38.6%
営業経費	58	76	+18	+31.0%
経常利益	20	17	▲3	▲17.7%
純利益	25	10	▲15	▲60.4%

【ソニー銀行】

- ◆前年同期比 増収減益
- ◆経常収益は運用資産残高の増加に伴い増加
- ◆経常利益は業務粗利益は増加したものの、システム関連費用などの営業経費が増加し減少
- ◆純利益は前年同期において繰延税金資産の積み増しがあったため減少
- ◆自己資本比率(国内基準)は08年3月末比5.23pt 上昇し14.38%

(億円)	07.12末	08.3末	08.12末	前年度末比	
有価証券残高	4,417	4,887	7,985	+3,097	+63.4%
貸出金残高	3,316	3,470	4,316	+845	+24.4%
預金残高	9,806	11,443	13,392	+1,948	+17.0%
預り資産残高	10,974	12,473	14,179	+1,705	+13.7%
純資産額	385	357	406	+49	+13.8%
その他有価証券評価差額金	▲47	▲90	▲152	▲62	—
総資産額	10,581	12,110	14,163	+2,053	+17.0%
自己資本比率(国内基準)	10.79%	9.15%	14.38%		+5.23pt

金額は億円未満切捨て、増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

ソニー銀行の経常収益は、業容拡大にともなう運用資産残高の増加により、主に資金運用収益が増加し、前年同期比**40.7%**増加し**255億円**となりました。

経常利益については、業務粗利益は増加したものの、システム関連費用を中心とした営業経費の増加により、前年同期比**17.7%**減少し、**17億円**となりました。

純利益は、経常利益の減少と、前年同期においては繰延税金資産の積み増しがあったことから、前年同期比**60.4%**減少し、**10億円**となりました。

ソニー銀行 主要業績指標(単体)



(単位: 億円)

	07.12末	08.3末	08.12末	前年度末比	
				増減額・数	増減率
預り資産残高	10,974	12,473	14,179	+1,705	+13.7%
預金	9,806	11,443	13,392	+1,948	+17.0%
円預金	7,818	8,926	10,703	+1,776	19.9%
外貨預金	1,987	2,517	2,688	+171	+6.8%
投資信託	1,168	1,029	787	▲242	▲23.5%
貸出金残高	3,316	3,470	4,316	+845	+24.4%
住宅ローン	3,239	3,388	4,230	+841	+24.8%
その他	76	81	85	+3	+4.7%
口座数	55.6万件	61.0万件	70.1万件	+9.1万件	+14.9%

金額は億円未満切捨て
件数は千件未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

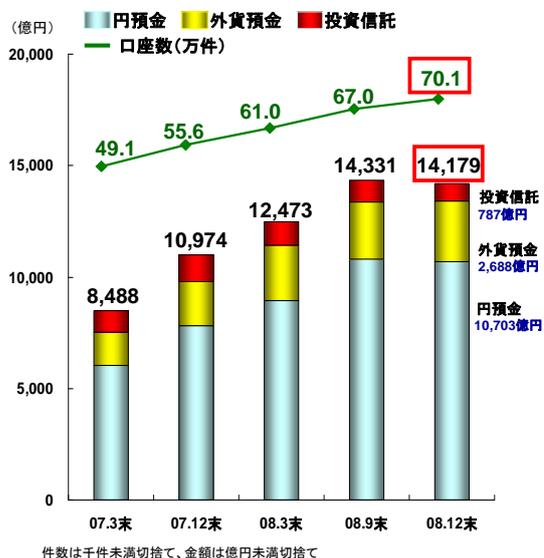
20

ソニー銀行の主要業績指標につきましては、このスライドの通りでございます。

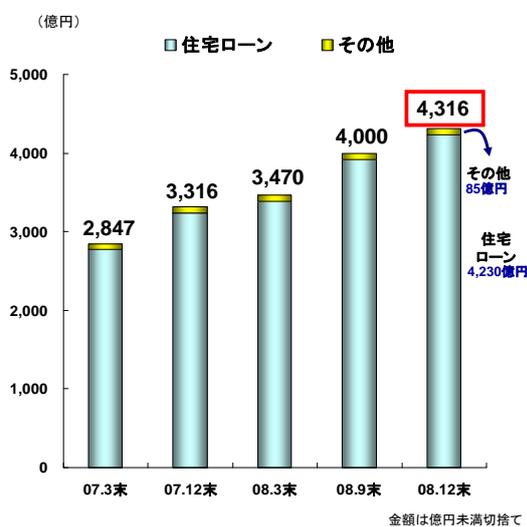
これ以降のスライドで過去の実績と合わせてご説明します。

ソニー銀行の業績(1)

預り資産残高(預金+投資信託)及び口座数



貸出金残高



(左側のグラフ)

まず、業容の動向についてですが、当期末の預金と投資信託を合わせた預り資産残高は、主に円預金の増加が貢献し、2008年3月末と比べて13.7%増加し、1兆4,179億円となりました。

そのうち、預金は17.0%増加し、1兆3,392億円、投資信託は23.5%減少し、787億円となりました。

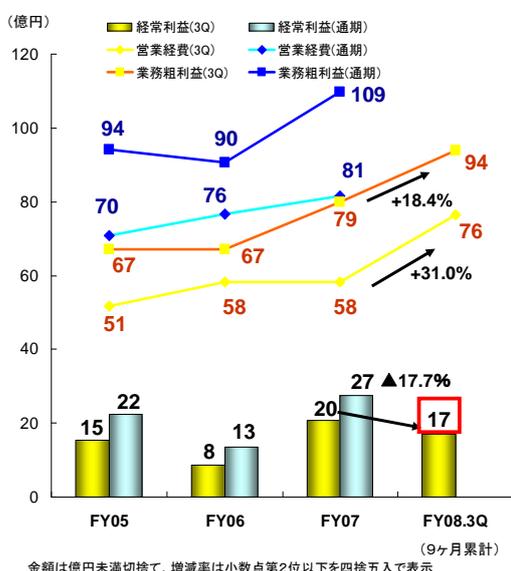
口座数は、前年度末比9万1千件増加し、70万1千件となりました。

(右側のグラフ)

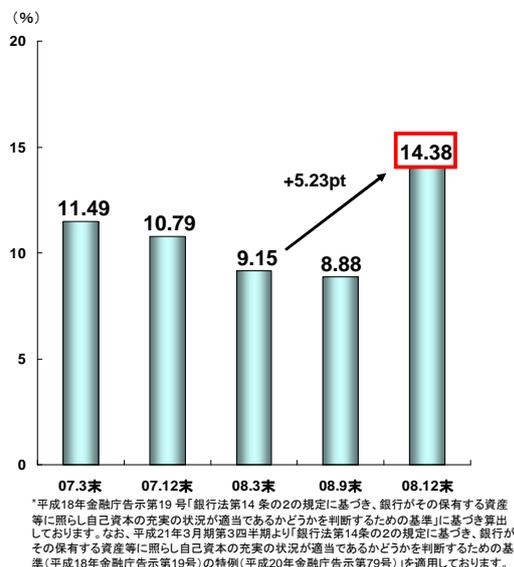
貸出金においては、24.4%増加し4,316億円と、順調に増加しております。貸出金の大部分は住宅ローンで、4,230億円となりました。

ソニー銀行の業績(2)

業務粗利益・営業経費・経常利益



自己資本比率(国内基準) 単体



(左側のグラフ)

収益性ですが、業務粗利益は、オレンジ色の折れ線グラフが示すとおり、主にその他業務収支の増加により、前年同期比**18.4%**増加し、**94**億円となりました。一方で、営業経費は、黄色の折れ線グラフが示すとおり、前年同期比**31.0%**増加し**76**億円となりました。以上の結果、経常利益は黄色の棒グラフのとおり、前年同期比**17.7%**減少し**17**億円となりました。

(右側のグラフ)

自己資本の状況についてご説明します。

国内基準の自己資本比率は、**2008年12月末**現在で**14.38%**となり、健全な水準を維持しております。**2008年3月末**に比べ**5.23**ポイント上昇した主な要因は、第3四半期末より、グラフ下の注記に記載のとおり、基準の変更を適用した結果、その他有価証券評価差額金が自己資本の算出において除外されたことによります。

さらに、財務基盤の健全性を確保するため、ソニーフィナンシャルホールディングスを割当先として、当第3四半期に**60**億円の増資を行っております。増資額は上期に実施した**60**億円と合わせて今年度**120**億円となります。

また、その他有価証券評価差額金は、主に社債等の価格下落により、前年度末に比べ**62**億円減少し、マイナス**152**億円となりましたが、その他有価証券として保有する変動利付国債については、当四半期から、合理的に算定された価額による評価を行った結果「その他有価証券評価差額金」が**35**億円増加しております。

FY08通期連結業績予想



(単位:億円 / 実績値の金額は億円未満切捨て、増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示)

	FY07	FY08 前回予想	FY08 今回予想	増減率	増減率
	A	B	C	C/B	C/A
連結経常収益	8,221	8,840	8,540	▲3.4%	+3.9%
うち生命保険事業	7,413	7,930	7,610	▲4.0%	+2.7%
うち損害保険事業	556	607	607	-	+9.2%
うち銀行事業	259	335	320	▲4.5%	+23.6%
連結経常利益	445	370	370	-	▲16.9%
うち生命保険事業	390	340	360	+5.9%	▲7.7%
うち損害保険事業	28	21	21	-	▲25.0%
うち銀行事業	24	14	▲4	-	-
連結当期純利益	242	210	210	-	▲13.2%

<修正理由>

■連結業績予想

生命保険事業の経常収益が期初の計画を下回って進捗していることなどを勘案し、経常収益は減収を見込む。ただし、経常利益、当期純利益については修正なし。

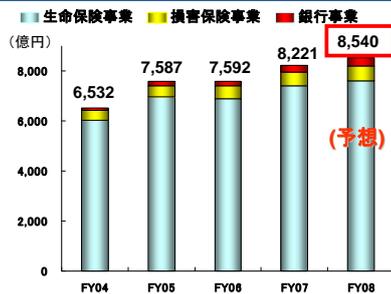
■生命保険事業

一時払保険料等が期初の計画を下回って進捗していること、株式相場下落にともない特別勘定の運用収益が期初の予想より悪化していることから経常収益は前回予想を下回る。当第3四半期にて危険準備金一部取り崩しの実施により経常利益は前回予想を上回る。

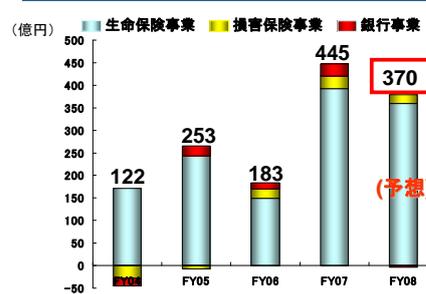
■銀行事業

金融市場環境の変化にともなう、有価証券価格の下落等の影響を勘案し、経常収益は前回予想を下回り、経常利益は経常損失となる。

連結経常収益



連結経常利益



23

次に、平成21年3月期の通期連結業績予想についてご説明いたします。

(左上の表)

当第3四半期における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、生命保険事業の経常収益が、期初の計画を下回って進捗していることなどを踏まえ、連結業績予想を、経常収益において8,840億円から8,540億円に下方修正いたしました。なお、経常利益、当期純利益については修正しておりません。

続いて、各事業分野別の業績予想ですが、生命保険事業では、一時払保険料等が期初の計画を下回って進捗していることと、特別勘定の運用収益の減少により、経常収益を7,930億円から7,610億円に、また、当四半期において危険準備金の一部を取り崩したことから、経常利益を340億円から360億円にそれぞれ修正いたします。

銀行事業においては、有価証券価格の下落等の影響を勘案し、経常収益を335億円から320億円に、経常利益を14億円から4億円の損失にそれぞれ修正いたします。

損害保険事業の修正はありません。

第3四半期以降の主な取り組みについては24ページをご覧ください。

また、日本会計基準と米国会計基準の差異については、2009年1月29日に当社が発表いたしました決算速報の参考資料に記載しておりますのでご覧ください。

以上でご説明を終了いたします。ありがとうございました。

第3四半期以降の主な取り組み状況

ソニー銀行におけるソニー生命による住宅ローンの取り扱い状況

2008年度第3四半期末(9ヶ月累計)

■住宅ローン新規融資実行金額の約35%

※銀行代理業務取り扱い開始:2008年1月



ソニー損保におけるソニー生命による自動車保険取り扱い状況

■新規自動車保険契約の約7%

※自動車保険取り扱い開始:2001年5月



<2008年>

- 10月1日 SFH、株式会社格付投資情報センターより、発行体格付け「AA-」の格付けを取得を発表
ソニー生命、北京駐在員事務所開設
- 10月2日 ソニー生命、新商品『無解約返戻金型平準定期保険・無解約返戻金型平準定期保険特約』発売
- 10月14日 ソニー銀行、株式会社日本格付研究所より、長期優先債務格付け「AA-」の格付けを取得
- 10月20日 ソニー銀行、LANsとのローソンATMの利用提携開始
- 10月29日 ソニー銀行、円と米ドルで支払いができる「2通貨決済機能付クレジットカード」取り扱い開始
- 11月1日 ソニー生命、徳島支社開設
- 11月4日 ソニー銀行、イーネットとのコンビニATM利用提携開始
- 11月12日 SFH、ソニー銀行の株主割当増資引受け
- 11月28日 ソニー生命、2008年3月末の市場整合的エンベディッド・バリュー(MCEV)を開示
- 12月17日 ソニー銀行、温暖化防止と開発途上国への支援を同時に行うプログラム「Climate & Children Supporters」へ参加
- 12月末 ソニー損保、自動車保険の保有契約件数、100万件到達

<2009年>

- 1月19日 ソニー損保、ペット保険の販売を開始
- 1月19日 ソニー銀行、世界と新興国に投資する3本のインデックスファンドの販売開始
- 2月1日 ソニー損保、自動車保険のインターネット割引額を拡大

(第3四半期以降の主な取り組み状況)



お問い合わせ先:

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 広報・IR部
TEL:03-5785-1074

ソニー生命保険株式会社 広報部
TEL:03-3475-8813

ソニー損害保険株式会社 広報部
TEL:03-5744-0330

ソニー銀行株式会社 経営企画部 広報担当
TEL:03-6230-5903

※グループ連結の決算・業績などに関するお問合せはソニーフィナンシャルホールディングスへ、
報道関係の方で、個別各社の事業に関する場合は各社広報窓口までお願いいたします。

お問い合わせ先